

# 座談会

Part 3

平成28年10月14日



## いわき市を

### もつとよくしたい！

#### 未来に対するディスカッション

いわきの魅力と今後の課題などを踏まえながら

これからの目指すべき未来の姿、理想の姿を

一期生、二期生の議員に語り合っていました。

### 熱い思いを抱いて立候補

—— まず初めに、皆さまが議員になろうとしたきっかけを教えてください。



**木田** 地域のためになりたい、いわきをよくしていきたいという想いからです。

**馬上** 私は学習塾の運営を二二年間続けてきたのですが、その間に父親から「学習塾を通じてどんな社会的貢献をしているのだ。」と言われました。その後、別の方にも同じような質問されたときに、社会貢献というのは、自分が地域から受けてきた恩を地域に返すことだと感じて、出

馬を決意しました。

**小野** 三〇代に青年会議所で一〇年ほど活動し、そのあと小名浜まちづくり市民会議という団

体の事務局をやってきましたのですが、民間のNPOなどによるまちづくり

には限界があり、一歩踏み込んで行政を動かしていく立場でまちづくりがしたいと考えたからです。

**狩野** 以前は、被保険者が約一万人いる県内の国保組合の事務長をやっていました。原発事故

で特に双葉郡の組合員が全国にちらばり、住所確認で苦労したことを踏まえて、原発をなくしていきたいという思いで立候補しました。

**柴野** 私は発災当時、病院で診療放射線技師の仕事をしており、患者さんや病院のスタッフか



座談会出席者

〈敬称略〉

小野 潤三

◎在任期間：平成24年10月～ 現在

吉田 実貴人

◎在任期間：平成24年10月～ 現在

狩野 光昭

◎在任期間：平成24年10月～ 現在

柴野 美佳

◎在任期間：平成24年10月～ 現在

木田 都城子

◎在任期間：平成28年10月～ 現在

馬上 卓也

◎在任期間：平成28年10月～ 現在

坂本 康一

◎在任期間：平成28年10月～ 現在



柴野 美佳

ら放射線のことを聞かれました。専門家として正しい知識を広めていきたいという思いと、自然の牙の大きさと人間の力のすごさを感じて、行政にかかわる仕事をしたいと思ったことがきっかけです。

**吉田** 私はいわき市の出身ですが、これまで東京に住み公認会計士として仕事をしてきまし

た。大震災をきっかけに、育ててくれた地域のために今まで蓄積してきたものを何らかの形で貢献できないかと可能性を探っていく中で、地方議員というところにたどり着き、四年前から活動させていただいています。

**坂本** 私が議員になったきっかけは、特別養護老人ホームに入れないという人や、国民健康保険の被保険者資格者証の交付を受けた人が、診察をがまんして病状を悪化させた人などから相談を受け、何とかしなければならぬと感じたことがあり、こういう住民の声を市政に届けたという強い思いからです。

予想を超えた忙しさ

二期目の方にお聞きします。議員になら

れて、予想と違ったことや意外だったことがありましたらお聞かせください。



狩野 光昭

**狩野** そうですね、予測はしていましたが、朝から夕方まで市民からの相談の電話が鳴って、朝の六時くらいから夜の七時、八時くらいまでであれば、すぐに駆けつけなければならず、大変なんだなと思っているところです。支援してくる方だけでなく、全然知らない方からもメールやフェイスブックなどで情報提供があり、そういったところも含めて対応していかなければならぬ大変さは身に染みています。

**柴野** 意外と市外や県外に出かけることが多いですよ。それだけいろいろな地域を見て、政策に生かしていくという面があるのですが、私が議員になったときは、子どもがまだ中学生だったので家族に負担をかけることが多かったというのがあります。

**小野** 議員が公式に拘束されるのは年四回の定

例議会で、それ以外は自分のペースで仕事をしたいのかと思っていたところ、いろんな場所に呼ばれ、会合なども数多くあり、相談事もあります。自分が進めたい政策についても、何回もヒアリングをしたり、担当の部署と話をしたりと仕事をしていくには時間がいくらかあっても足りません。もう少し、余裕があるのかと思っていました。

**吉田** 二回選挙をやって、一回目は無我夢中でしたが、二回目は選挙がどういうものかを知りました。理屈で言えば、この四年間の活動が評価されるはずですが、やってみると今まで接点のない方から支持されていたり、逆に一生懸命取り組んでいたものが、意外に注目されていなかったということを感じましたね。

## おのおのが目指すもの

—— 初当選された二期目の方は、ご当選された



木田 都城子

今、これからどんなことに取り組んでいきたいとお考えですか。



**馬上** 子どもたちの教育に二〇年以上かかわってきたので、教育は絶対にはずせません。教育というのは、始まりが大切だと思っています。参考書や問題集があったとしても、それを与えられた人間がみな同じペースでこなしていくことはできない。自分がやる気になったときに、初めて子どもたちは自分で行動を起こす。その行動を起こすきっかけづくりをなんとか探っていきたいと思っています。子どもたちが自ら生きるきっかけ、自ら行動を起こすきっかけ、そういったものをもっと数多くつくって、子どもたちの個性や能力を引き出したいと考えています。

**坂本** 選挙期間中、いろんな要望をお聞きすることが多かったのですが、その中で子どもの食育、とりわけ公約でもありました小中学校の学校給食の無料化を実現するために頑張っていきたいと思っています。

**木田** 私はいわき市にずっと住んでいても、知っていそうで知らない地元のことを意外に多いと感じています。いわき市で暮らしている人々の個性や蓄積された経験などを掘り起こし、地域の力に高めていければと考えています。そのためには、まずは地域を知ること。知らないことには、大切にしようとか、守っていこうといった考えに至らないので、そういったものを地域住民の方とやり取



りし、現場を拝見させていただきながら、掘り起こしていけたらと思っています。

## 海はもちろん山や空も魅力的

—— いわき市は気候が穏やかで、高速道路も整って交通の便がよく、魅力的なまちだと思いますが、地元の人だから分かるいわき市の魅力

とはどんなことでしょうか。

.....

**馬上** 自然の豊かさは非常に感じます。ただ、先ほど木田さんがおっしゃったように、自分の地元って意外と知らないところがあるんですよ。逆に市外から来た人に教えられることがあります。いわき市に観光や仕事で来た人に、外からの視点で魅力を発見してもらえようという機会ができたらと思います。そして、そういった方にいわき市の魅力を発信していただけるとありがたいですね。

**柴野** 私は、生まれが岩手県の宮古市なのですが、両親の転勤で東北中を歩いていました。あるとき、いわき市に来たときに、両親は、「こんな住みよいところはない」と感じ、転勤をするのを



やめました。私が小学校五年生のときで、それからずっと住んでいます。そのときは、会津若松市からいわき市に引っ越してきたのですが、子ども心にもなんて穏やかなところなんだろうと思つたものです。大学は新潟だったのですが、十月から冬にかけて雲がずっと低く垂れ込めて、鬱々とした日々を送っていました。なんでこんなに気が晴れないんだろうと思つたときに、ああ空がないからだと感じたんですね。そして、どうしてもいわき市に戻りたくて、帰ってきました。秋の青い空を見るたびに、なんていわき市は素敵なんだろうと思います。

**狩野** 私は石城山岳会に入って山登りしているのですが、いわき市の山は冬山が魅力的です。なぜなら、雪がほとんど降らず、阿武隈山系に登ると必ず太平洋を眺望できるからです。いわき市は海の観光で有名ですが、もうひとつの魅力として山の観光が重要だと思っています。今年、山の日が制定されました。山岳会では十二月にいわき市の七つの峰を縦走する「いわき七峰縦走」というのを催していますが、参加者は年々増えており、今では県内外から三〇〇名ほどの登山愛好者が集います。日本で一番遅い山開きと銘打つていくのもよいのではないのでしょうか。いわき市の山の魅力をアピールしていけば、大きな集客につながると思います。その延長線上で、石炭・化石館ほるるや産業遺産、アンモナイトセンターなどをつなぎ合わせて、ジオ



馬上 卓也

パークの認定を含めて発信していけば、大きな観光誘客につながる可能性があり、そういった点をアピールしていきたいと考えています。

### 山積する課題と向き合つて

——さまざまな魅力がある一方、長期的な検討課題としてはどんなことがあるとお考えでしょうか。

.....

**柴野** 医療の問題は深刻で、医師不足というのは全国的な問題ですが、いわき市の医師不足は特に深刻な状況で喫緊の課題です。震災以降、一気に拍車がかかりました。現在、総合磐城共立病院を建設中ですが、新病院がオープンしたからといって解決できる問題ではありません。

**馬上** 柴野議員が医師不足を指摘していますが、実は、いわき市からお医者さんになっている人は、そんなに少なくはありません。私の高

校時代には、一学年で三〇人近くが医師になっています。では、なぜ戻ってこないのかというと、今は、研修先の病院を医局が取り仕切るのではなく、マッチングという制度があつて、自分で選べるためです。スキルアップがしたいからと大学病院などに行くことが多くなっています。ですから、総合磐城共立病院も、初期研修医を獲得でき、スキルアップができるようないわき市独自の医師を呼ぶために、制度が必要なのではないかと思ひます。そして、自分たちの病院の医師は自分の地域でまかなうという、長期的なビジョンも求められると思ひます。

**吉田** 私は、いわゆるホワイトカラーの雇用の問題があると思ひます。今までいわき市は、工業団地の造成や、港湾、道路などの整備を行い、第二次産業に関しては非常に上手にやってきました。一方ホワイトカラーについては、見落とししてきた部分があり、その雇用をどう創出しているか。具体的にどう起業し、また今あるいわき

市の拠点をどう大きくして事務系の仕事をつくっていくかがこれからの課題です。取り組みはすでに始まっていますが、今後は、それをどう力強く進めていくかだと思ひます。

また原発からの長期避難者の問題もあります。そうした方々は、双葉郡の方を中心としていわき市に多く住まわれています。二万三〇〇〇〜四〇〇〇人と言われているのですが、その人数はいわき市の人口の一割近くにあたります。さらに原発関連や除染、建設などで作業をしている方も、二万数千人近くいるとも言われています。そうした人が数万人も住んでいる自治体は、全国でいわき市しかありません。モデルがない中で、われわれはやったことがないことを解決しなければならず、柔軟な発想が求められます。手探りではあるものの、現実の課題であり、やっていかなくてはなりません。今まで何十年間も違う生活環境で暮らしてきた方々が、震災を機にいわき市で生活する中で、数多くの細かい課題に直面することになります。例えば、今まで空き地だった場所に仮設住宅や新築住宅が建つことで生じる、以前から住んでいた住民との関係性など、一つひとつは細かい話でも、住んでいる人にとっては深刻な課題がたくさんあり、まともでは解決できないけれども、一つずつ解決していかなければならない。そうした状況です。

**狩野** 私が考える課題のひとつは「買い物弱者」の問題です。中山間地の高齢者の方々が車の免許を返上しているためで、小川や四倉、三和地区では、土日は公共交通であるバスが走りません。これからの大きな課題は、そうした買い物弱者の人たちの足をどうやって確保するかだと思ひます。

もうひとつは、さまざまな認知症予防の取り組みがなされている中で、生涯学習をもう少し充実していきたいと思ひます。私は、社会人になってからも二度目の福島大学や大学院で学んだのですが、社会人として大学で学んでいる人は、福島大学では六三人いますが、いわき市内の大学には一人もいません。その予防にもつながる生涯学習という観点から、市内の二



吉田 実貴人





つの大学だけではなく、福島大学等でも学べるような体制、通信教育やサテライトを含めて、単位の取得ができる可能性を考えています。いつでも学び直しができる体制ができれば、いったん都会に出ても、またいわき市に戻ってくるのではないかと思いい、そうしたいわき市をつくりたいと考えています。

**木田** 先ほど中山間地の話がありましたが、実は福島県の森林の率といわき市の森林の率はほぼ一緒で、約七割を占めています。いわき市は海のイメージが強いものの、川前や三和など林

業が盛んなところがあります。高齢化の影響を最も受けたのが第一次産業である林業と農業であり、もともと生業の中で、山を保全したり、農地を保全したり、それによって水の供給や土砂災害の防止といった機能を担っていたのですが、やはり担い手が不足しています。産業として、生業として、改めて農業、林業、そしてその担い手の育成というものを考えていかなければと思います。今すぐには答えは出ないと思いますが、長い時間をかけて、取り組んでいかなければいけないと思います。いわき市は市街地があるせいか、どうしても中山間地域に対する手当が、あとになってしまふ印象を受けます。そういう意味では、農業、林業の担い手だけではなく、その危機感を感じる人たちを増やし、裾野を広げていく必要があると感じています。

**小野** 議会改革も長期的な検討課題です。私は二期生なので、この四年間のことしか知りませんが、その期間では、具体的に議会改革を進めようと三つの取り組みを行いました。一つ目は議会報告会で、市民に対して議会のことを発信していく場をつくりました。二つ目は政策提案ということで、議会が条例をつくり、政策を形成していくプロセスを構築しました。三つ目は常任委員会での委員間討議ということで、議員同士の議論を進めました。ここまで試行的にやってきて、次に何をするかという段階にきていますが、全国の取り組みの中では遅れ気味で



小野 潤三

す。実際にやってみたもののうまくいっていないものもあります。議会報告会は参加した市民の数より出席している議員の数の方が多いこともあるぐらい、市民が参加してくれません。このような取り組みをしたにもかかわらず、今回の市議選は史上最低の投票率で五割を切っていました。議会のあり方が非常に問われている状況の中で、一期生や二期生といった比較的若い議員の中から、新しい動きをつくっていくかなければならないと思っています。

## 五〇周年への思い

—— いわき市議会五〇周年という記念を迎えるにあたり、その想いを一言お願いいたします。



**吉田** 五〇周年の場に立ち会えることはうれしいと思う反面、これから先に向けての課題もたくさんある中で、いい基点だと思っています。そ

の意味でわれわれは新しい発想でやっていきたいし、一期、二期の声というのは、とても大事になってくるのだらうと思っています。

**坂本** 五〇周年というのは、私の年齢とほぼ同じです。生まれて一歳ぐらゐのときに合併し、物心ついたときからいわき市ですが、いわき市でも高齢化がどんどん進んでいて、介護で大変な思いをしている人が多いので、そういった点をこれから手当していければと思っています。

**小野** 五〇周年五〇の事業と銘打っているいろいろな事業が行われていますが、この五〇年間はどうだったのかという検証がなされていませんし、次の五〇年をどうやっていくのかという議論にもつながっていません。今後の人口減少の問題もあります。いわき市の基本的な問題は合併都市だということです。どこが中心なのか定まっておらず、その現状を承認する形で「広域多核都市」とネーミングしました。合併都市というスタートラインをもう一度検証して、こ



坂本 康一

こから先どう進めていくのか、よく考えていかないと行政としても立ち行かなくなり、市民生活にいろいろと支障が出てくると思います。そういう大きな議論をこれからしなければいけないと強く感じています。

**柴野** 福島は原発事故の風評被害を受けたことから、再生可能エネルギーについて発信していくことは、すごく大切なことなのではないかと思っています。福島県は二〇四〇年までに、県内の電力需要を一〇〇%再生可能エネルギーでまかなうという宣言をしています。あまり大きく取り上げられておらず、いわき市でも本腰が入っていない気がします。いわき市は、再生可能エネルギーのポテンシャルが高く、太陽光や風力、地熱など、さまざまな組み合わせで発展していけるところだと思っています。今後の五〇年を考えたときに、率先して再生可能エネルギーに取り組んでいくべきではないかと思っています。

## 叶えたい未来のいわき市

最後に、これからのいわき市がこんなまちなってほしいという理想の姿についてお聞かせください。



**坂本** 私は湯本生まれなので、観光ですね。金比羅様や山神様など、昔はもつと活気があった



と親にも聞いています。温泉をもつと生かして、昔のような活気を取り戻したいと思っています。

**吉田** 市民一人ひとりが郷土愛を持ち、自分たちの地域に誇りを持って暮らし、経済的にも自立して、将来にわたって持続可能なまち、そうしたまちができればいいなと思っています。

**柴野** 少子高齢化というのを、笑子幸齢化に変えて、子どもたちの笑顔が輝き、幸せに齢を重ねていけるまちにしたいですね。どこもそうした地域を目指していると思います。一人

ひとりがいわきに住んでよかった、幸せだったという思いを持てるまちづくりをしていけたらと願っています。震災で得た一番の教訓というのは、人と人とのつながりが本当に大事なのだと多くの人が感じたはずですので、人と人が支え合う、そうした社会をつくっていきけるのではないかと思っています。

**狩野** 障がい者も高齢者も安心して自宅で住み続けることができるまちづくりに努めていきたいと考えています。

**小野** いわき市にある多様な地域性や文化をきちんと維持しながら、すべてのいわき市民が共通のふるさとはいわき市だと感じられるような郷土愛、地域に対する愛着をベースに、持続可能なまちにしなければなりません。さらに若者が夢を持って、それを実現できるようなまちである必要があります。そうした若い世代をいかに育てていくかが大事で、それが実現できるような地域づくりをしていくべきだと思っています。

**馬上** 抽象的になってしましますが、年代層を問わず、常に笑顔があふれるまち、これが基本じゃないかと思っています。そこに教育や福祉が連なりますが、基本的に住んでいる人間が常に笑顔があふれるまち、そうしたまちを目指して、自分も微力ながら頑張っていきたいと考えています。

**木田** 農産品などでよく地産地消という言葉

が使われますが、それを人材や産業、経済面にも広げていけたらと思っています。人材や財源、資源といった、いわき市が持っているものは有限であるものの、人の知恵や力は、無限の可能性を秘めています。そういったものを有効に活

用できるような、いわき市にしていきたい。いわき市で生まれて、いわき市で働いて、いわき市で暮らしていく。その当たり前の生活が幸せと思えるような、そういう生活が続くいわき市を目指していきたいと思っています。

